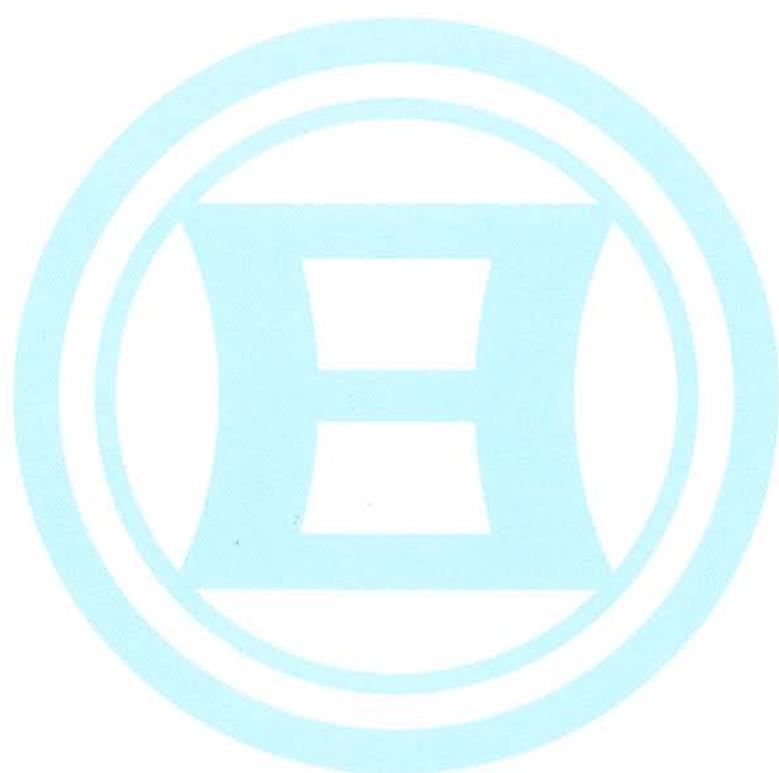


NIHONKAI KENSETSU

50年の歩み





台船308号上クレーン船「第一日正号」  
(昭和55年3月)

昭和25年7月「日本海築港(株)」を設立、日本海沿岸の民間企業で初めて浚渫船を建造、金石港の浚渫を手始めに、県内の各港の建設に携わり、現在では、造成工事や道路、橋、下水道などの土木工事を中心に幅広く実績を重ねております。

住みよい環境創りを目指す  
**日本海建設株式会社**



## 御挨拶

創立50周年を迎えるにあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

日本海建設(株)は、戦後の復興期、昭和25年7月に設立し、昭和から平成への激動の時代に50年という歴史を積み重ねて今日に至りました。当社の今あるのは、官界、経済界、地域社会の皆様等、多くの方々の御支援と御鞭撻の賜物であると思っております。心より御礼申し上げます。

また、創業以来、今日の会社の基礎を築き、発展させて来られた多くの先輩諸兄の御苦勞に対し、敬意を表すと共に感謝を申し上げるものでございます。

50年の歴史を振り返ってみますと、実にさまざまな厳しい状況がございましたが、昨今の経済事情はそれ以上の困難な時代の到来を予想させます。私たちは、今日の隆盛に安住するのではなく、将来への更なる飛躍のために精進を重ねて行く必要があります。会社は生きております。これを機に新たな前進の一步を踏み出さなければならないと思っております。

皆様、今後共尚一層の御指導、御支援を賜りますよう御願ひ申し上げます。

代表取締役社長 小柳正彦



称 号	<b>日本海建設株式会社</b>	
本 社	〒921-8027金沢市神田1丁目3番10号 TEL(076)243-3131(代) FAX(076)244-1599	
七尾営業所	〒926-0816七尾市藤橋町亥61-2 TEL(0767)52-4191 FAX(0767)52-6917	
富山営業所	〒939-8211富山市二口町368番地 TEL(0764)25-6462	
会 社 設 立	昭和25年7月6日	
資 本 金	45,000千円	
社 員 数	男子72名 女子6名 計78名	
建設業許可	特9-第1031号(建設大臣許可番号)	
建設業の種類	土木工事業、建築工事業、管工事業、鋼構造物工事業 舗装工事業、浚渫工事業、造園工事業、水道施設工事業	
技 術 者 数	1級土木施工管理技士	36名
	2級土木施工管理技士	24名
	1級建築施工管理技士	2名
	1級管工事施工管理技士	3名
	2級管工事施工管理技士	1名
	1級造園施工管理技士	3名
	2級造園施工管理技士	1名
	1級建設機械施工技士	1名
	2級建築士	2名
	その他技士	25名

住みよい環境創りを目指す

**日本海建設株式会社**



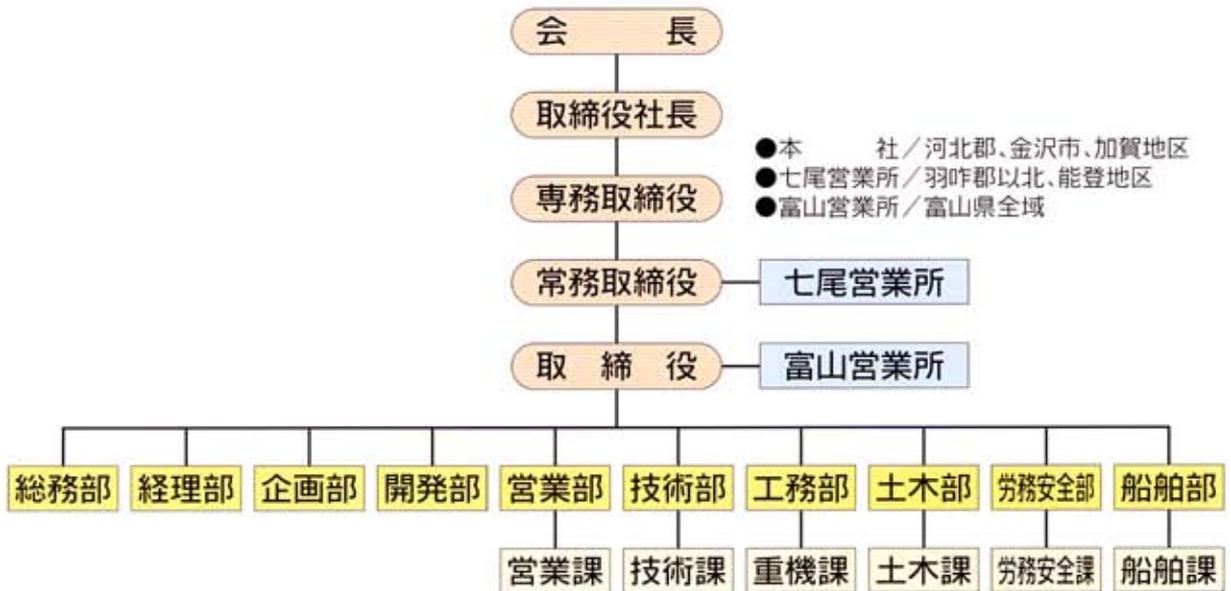
昭和25年4月に、2隻目を購入した木造製のポンプ浚渫船「石川號」。フローターを継管し、ポンプ排泥管を延長し、中継して、金沢市大野川河口を浚渫していた当時の写真。

左側より松本信夫氏、三人目萩原銃十郎氏、五人目ポンプ船長白杵久雄氏(マフラー姿)以下(元阪神築港(株)のメンバー達)



# NIHONKAI KENSETSU

## 組織図



取締役相談役 小柳 正明  
 取締役会長 小柳 章  
 取締役社長 小柳 正彦  
 専務取締役 小柳 誠  
(営業担当)  
 常務取締役 町駒 孝史  
(七尾営業所長)  
 常務取締役 沢田 次郎  
(土木担当)  
 常務取締役 小柳 英二  
(総務経理担当)  
 取締役経理部長 野村 史朗  
 取締役 橋本 吉男  
土木部第一部長  
 取締役 庄田 士朗  
土木部第二部長  
 取締役営業部長 萩原 田雄  
(富山営業所長)  
 取締役 沼田 勝三  
(営業担当)  
 取締役 岡島 忠雄  
 取締役 中村 紀昭

船舶部長 白杵 久雄  
 営業部長 中谷 端  
 労務安全部長 桑名 武  
 技術部長 吾岳 芳雄  
 企画部長 中嶋 修二  
 開発部長 杉本 宣明  
 土木部次長 角 秀一  
 労務安全部次長 東 宏  
 参事 宮下 善信  
 監査役 小柳 照子

# NIHONKAI KENSETSU

## 役員



初代社長  
小柳 正明

■主な経歴  
石川県建設業協会 副会長  
石川県建設産業連合会 副会長  
建設大臣表彰章  
自治大臣表彰章  
黄綬褒章授章  
勲五等瑞宝章授章



二代目社長  
小柳 章

■主な経歴  
石川県建設業協会 常任理事  
石川県土地改良協会 副会長  
石川県港湾漁港建設協会 会長  
運輸大臣表彰章  
(石原慎太郎大臣)  
石川県港湾漁港建設協会 会長 表彰



代表取締役社長  
小柳 正彦



専務取締役  
小柳 誠



常務取締役  
七尾営業所長  
町駒 孝史



常務取締役  
土木担当  
沢田 次郎



常務取締役  
総務・経理担当  
小柳 英二



取締役  
岡島 忠雄



取締役  
中村 紀昭



故 専務取締役  
小柳善五郎



故 専務取締役  
萩原銑十郎

# NIHONKAI KENSETSU

社員



# NIHONKAI KENSETSU

社員

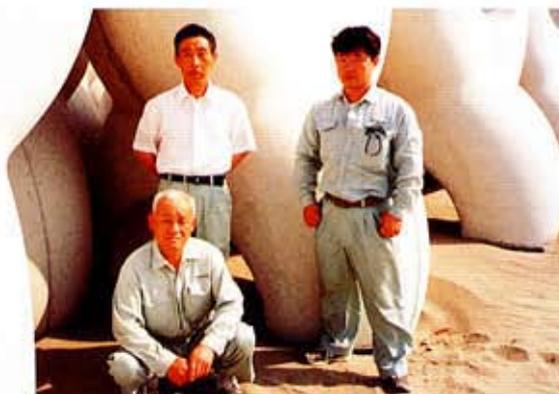


## 七尾営業所



# NIHONKAI KENSETSU

社員



# NIHONKAI KENSETSU

社員



# NIHONKAI KENSETSU



## ■50年の歩み

「企業シリーズ」と題して昭和52年に北陸中日新聞紙上に当社が県内の有名企業のうちの一社として紹介されました。我社の前身は昭和12年小柳正明の父興三太郎氏が創業した米屋さんでした。

第2次世界大戦終了後、米屋さんもバツとせず昭和21年5月に「野々市木工」を設立して、製材業を始めましたが、思うように業績が振るいませんでした。その頃、3男の善五郎氏が金沢工専（現在の金沢大学工学部）を卒業して、関西神戸の阪神築港（株）、[現在の東洋建設（株）]に勤務し、港湾土木の仕事に携わっていました。港湾や河川の仕事をしながら、北陸地方でも築港関係の事業が有望ではないかと、同氏を含め正明、章、銃十郎、兄弟四人と章氏の同級生岡島二郎氏が県内で事業を興す為に親戚や知人等に協力してもらい、昭和25年7月に日本海築港（株）を設立するに至りました。その当時阪神築港（株）に白杵久雄氏がポンプ浚渫の業務に携っていて8名を石川県で働いてくれるように勧めました。

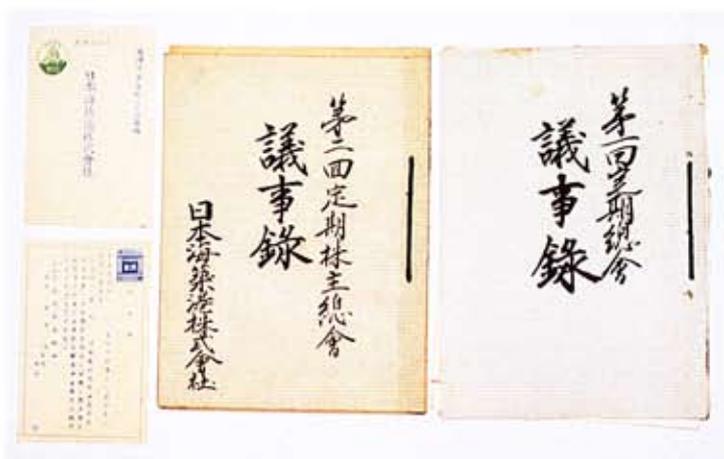
当時の浚渫船は次頁の写真で紹介されている木造製の船でありました。戦後の荒廃した国土の復興、特に石川県の長い海岸線の整備の必要性、当時は物価の高騰で建設事業の遂行が大変困難な時代でありました。特に経済基盤の脆弱な石川県における建設業者は、零細業者が多く大規模工事の施工は県外の大手企業に依存していたが、当社は、いち早く技術の研磨と設備の近代化を図り、企業の合理化、改善に努めた。兄弟四人が力を合せ、浚渫技術者達の卓越した能力を十分に発揮し現在の我社のゆるぎない基盤となり今日に至っております。



NIHONKAI KENSETSU

第一期營業報告書	
金澤市青島町二十四番地	
日本海築港株式會社	
當會社第一期營業年度	自昭和二十五年七月六日
	至昭和二十六年四月三十日
營業概況及び諸計算ヲ報告スルコト左ノ如シ	
一 資本金及株式	
當會社ノ資本金ハ壹百萬圓也	之ニシテ株式總數
貳百株(壹株五拾貳也)	全額拂込済ナリ
當期間ニ於テ株式名義書換ヲナシタモノナク	期末
株主總數ハ貳拾壹名ナリ	
二 株主總會	
昭和二十六年五月二十五日	午前十時

当社設立後、第1回目の株主總會及び、營業報告書  
(昭和26年5月25日)



当時の總會議事録と株主様の總會出欠用のハガキ

創立總會議事録

昭和貳拾五年七月廿日午前九時金澤市青草町貳拾四番地日本海築港株式會社創立事務所に於て日本海築港株式會社の創立總會を開催す  
當日株式引受人出席人員及株数左の如し

株式引受人總數 名 株式總數 貳萬株  
出席株式數 貳萬株

定期發起人代表小柳正明氏は創立總會の開會を宣し議長の選舉を求めたる  
ところ出席者一同は小柳正明氏を議長に推舉したるを以て同氏は更めて議  
長席に着き昭和貳拾五年七月廿日發起人より各株式引受人に通知したる會  
議の目的たる事項を附議する旨を述べ議事に入る

第壹號議案 創立總會期間短縮承認の件

議長は右議案を提議しその承認を述べたるところ満場一致を以て全員異  
議なく之を承認したり

第貳號議案 創立に關する事項報告の件

議長は別紙の創立事項報告書に基き創立に關する経過を報告したるに満  
場一致を以て之を承認したり

第參號議案 定款承認の件

議長は別冊定款を朗讀し逐條説明したるころ満場一致を以て之を承認  
したり

第四號議案 取締役五名及監査役貳名選任の件

議長より取締役五名監査役貳名の選舉を爲したる旨提議したるころ株  
式引受人 氏より選舉を省略し議長の指名に一任したる旨の動  
議提出あり満場一致を以て之に賛成したるに付議長は左記の各氏を指名  
し満場に報告したる上被指名者に対し就任を求めたるに全員その就任を  
承諾したり

取締役	小柳正明
取締役	岡島二郎
取締役	老田務
取締役	小柳章
取締役	小柳善五郎
取締役	小西小二郎
監査役	小柳善五郎
監査役	小西小二郎
専務取締役	小柳正明
専務取締役	岡島二郎
常務取締役	小柳章

設立時の總會議事録

当時の社名

「日本海築港株式会社」

取締役は、次の通りとなっている

小柳正明  
岡島二郎  
老田務  
小柳章  
小柳善五郎  
小西小二郎  
以上七名



登録通知書

一、登録番號

い第三一三號

二、登録年月日

昭和二十五年七月三日

三、商號又は名稱

日本海築港株式会社

四、営業所の所在地

金澤市青草町二十四番地

五、申請者氏名

小柳 正明

以下の申請書の通り登録したから建設業<sup>法</sup>第八條  
第二項の規定により通知する

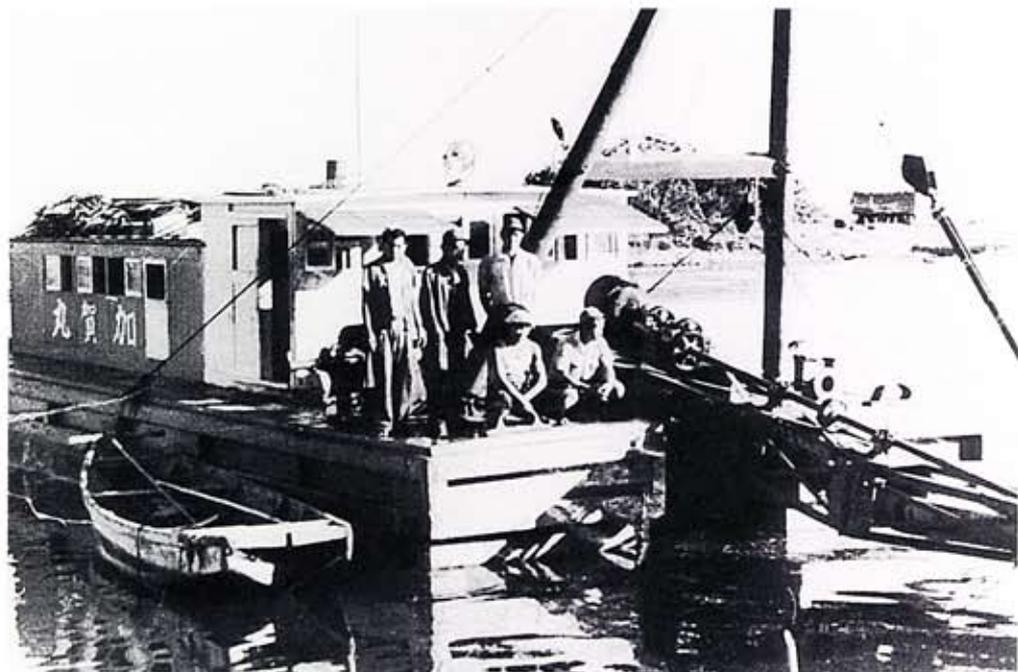
昭和二十五年七月三日

石川縣 知事

日本海築港株式会社 殿

昭和25年に発行された建設業許可通知書 石川県知事より

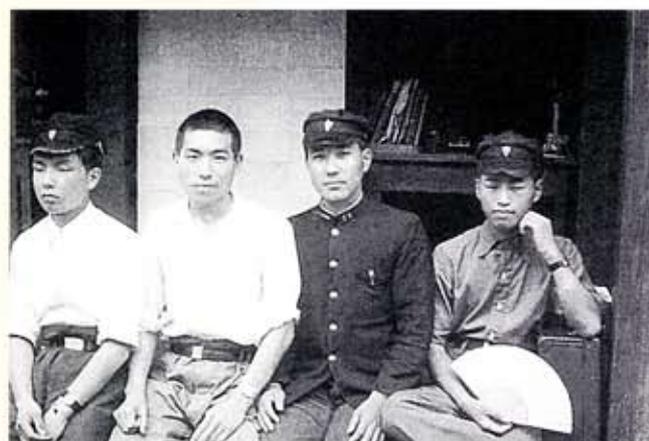
■50年の歩み



浚渫工事を手始めた当時の最初の木造製の浚渫船「加賀丸」  
金沢市金石港河川口於  
〈昭和25年3月〉



浚渫船「石川號」  
金沢市大野川河口辺  
〈昭和25年4月〉



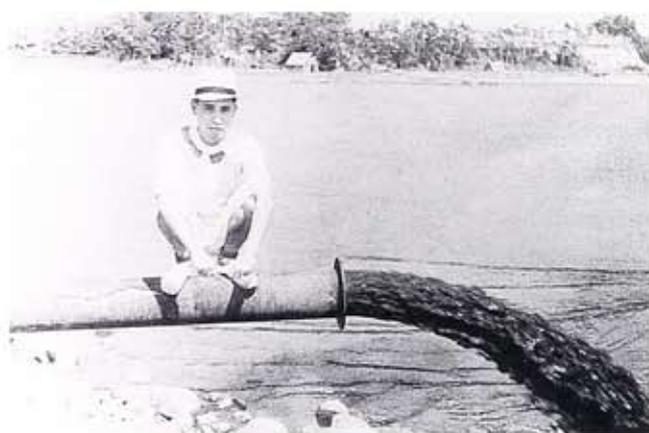
金沢一中を卒業して金沢工専(現在の金沢大学工学部)で学友と共に勉学していた頃の小柳善五郎氏(右から二人目)金沢市内学友の自宅於  
(昭和21年7月)



大野川河口現場での昼夜問わず寝泊まりしていた頃の宿舎の前で撮影  
前列右側=小柳章氏、後列左側二人目=臼杵久雄氏  
(昭和25年4月)



志賀町阿部屋港浚渫工事視察  
左より小柳善五郎氏、小柳正明氏、小柳章氏  
(昭和26年8月)

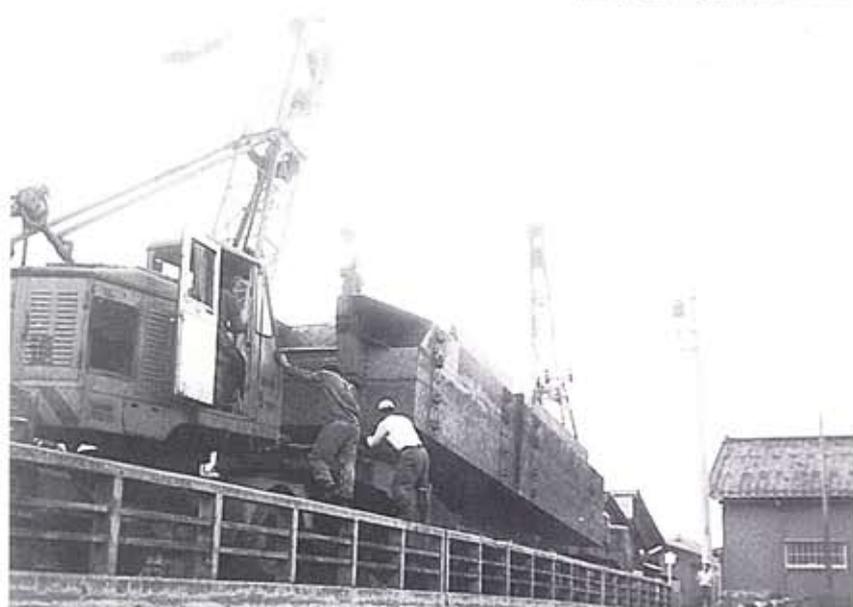
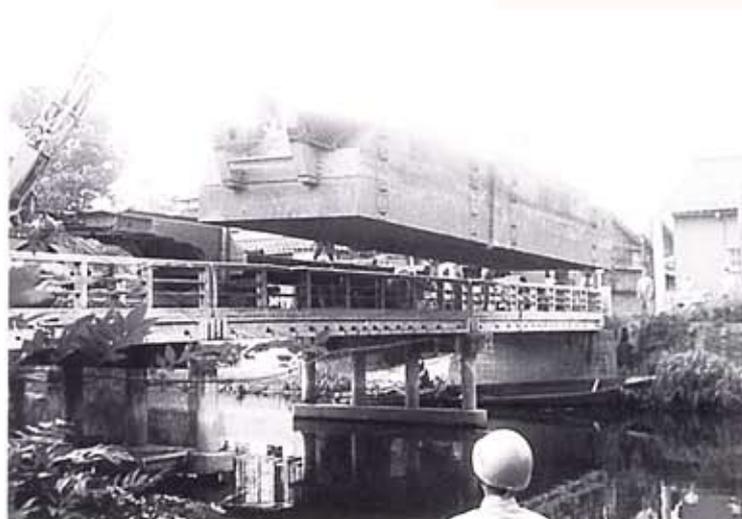


宇出津田の浦浚渫工事 小柳正明氏  
(昭和28年8月)

## ■50年の歩み



浚渫船「兼六号」の工事完了による解体作業  
風景 金石大野川現場於  
〈昭和28年10月〉





当社設立以来、最も印象に残り苦勞したと思われる難工事としては、昭和33年5月に着工した金石町地内1,200mに及ぶ海岸護岸災害復旧工事であります。

同地海岸は、毎年1m以上も浸食され、密集街区まで残り20mを余すのみとなり、石川県で始めて激浪地帯の砂地海岸にコンクリート護岸を施工することになったが、施工箇所は激浪により深くえぐられているため、水中施工となり、当時の建設機械未整備時代において、水深下2m以上のコンクリート基礎工事は、難事業とされていたが、近代建設機械の導入で施工期間中に数回に及ぶ波浪災害を克服し、企業の総力をもって、これを完成させたのであります。



# NIHONKAI KENSETSU



## 伊豆半島 慰安旅行

前列左側三人目より、中村晃氏、萩原鉄十郎氏、小柳善五郎氏、松本信夫氏  
 前列右側 宮下善信氏、後列右側 川平和一氏、中央 宮下克治氏、  
 当時の社員は社長を含めて30名でありました。

〈昭和39年4月24日〉





平成元年度安全衛生大会 /  
小柳正明社長より、挨拶と現場内での安全対策と労務の  
安全について説明がなされた  
〈平成元年7月21日 本社3階研修室於〉



安全衛生管理に努力され、社長より表彰状を贈ら  
れる桑名労務安全部長  
〈平成元年7月21日〉

NIHONKAI KENSETSU

■50年の歩み



定期安全パトロール／  
山口離岸堤工事  
〈平成2年5月17日〉



安全パトロール修了後、現場パトロールの結果を各々報告し、改善を要する問題点などを協議している  
〈平成2年5月17日 金石監督詰所於〉



定期安全パトロール／加賀市橋立漁港  
〈平成2年6月14日〉



能登縦貫道路柳田高架橋工事  
〈昭和54年8月31日完成〉



国道157号線、8号線赤谷大橋架換工事  
日本海・丸石・西山建設企業体  
〈昭和52年9月30日完成〉

NIHONKAI KENSETSU

■50年の歩み



平成8年度全国安全週間/  
特別安全パトロール出発式に当たり社長より挨拶する  
〈平成8年7月4日 金石監督詰所にて〉



上下水道配管埋設工事には、特に土留鉄板等、破損・不備な箇所がないかチェックし、また指摘改善するよう勧める





橋立漁港ケーソン製作工事  
安全パトロールより  
〈平成6年8月31日完成〉



橋立漁港防波堤上部工工事  
〈平成5年7月31日完成〉



キャタピラー三菱988型トラクタショベル  
昭和46年購入当時、この大型ショベルは  
日本にまだ3台しか輸入しておらず、特に  
海岸工事時には、大変な活躍をしました。



瑞樹団地地盤改良造成工事  
〈平成6年9月30日完成〉

■50年の歩み



和倉温泉シーサイドパーク建設工事  
日本海・川田組特別共同企業体  
〈平成元年6月30日完成〉



富来漁港第4防波堤（上部工消波堤）工事  
〈平成10年3月10日完成〉



第102号「日本海丸」進水式  
総トン数11トン、580馬力  
〈平成11年1月25日 清水造船所製作〉



台船上クレーンによる上部工生コン打設状況  
〈平成9年10月31日完成〉



能登病院移転新築事業造成工事 着手前



能登病院移転新築事業造成工事  
日本海建設・川田組・和田内潜建共同企業体  
〈平成10年3月31日完成〉

NIHONKAI KENSETSU

■50年の歩み



農業集落排水事業  
笠師保地区処理場土木・建築工事  
〈平成10年7月31日完成〉



中島町上水道拡張工事  
河内浄水場土木・建築工事  
〈平成12年3月24日完成〉



富来湾漁港第4防波堤その2工事  
石川島65t吊りクレーンによる製作移動状況  
〈平成12年5月31日完成〉

製作されたテトラポットを台船に  
乗せてから海岸へ吊り上げて据付  
する  
〈平成12年5月〉





10災634号大野川河川災害復旧工事  
（浚渫船第三石川号）  
〈平成11年9月15日完成〉



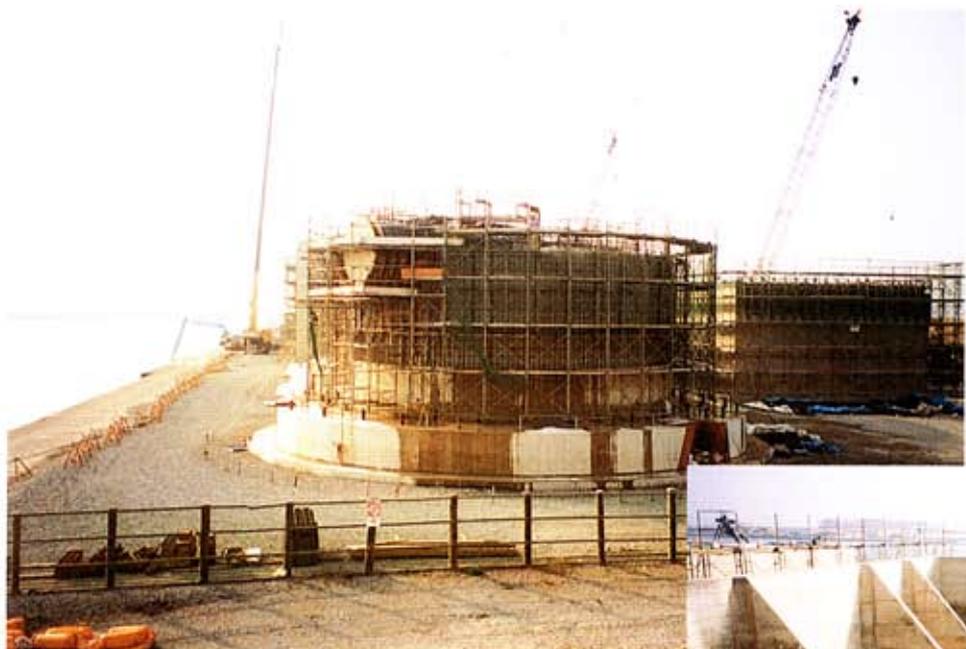
浚渫工事による排泥管の吹出口

NIHONKAI KENSETSU

■50年の歩み



志賀原子力発電所第2号機  
ケーソン製作内金沢港浚渫工事  
〈平成12年6月30日完成〉



ケーソン工事内部構造部  
原子力高速炉排水冷却構造

志賀原子力発電所第2号機  
ケーソン製作工事  
大豊建設・日本海建設・北都組・北陸港湾  
・外浦港湾企業体  
〈平成12年6月撮影〉





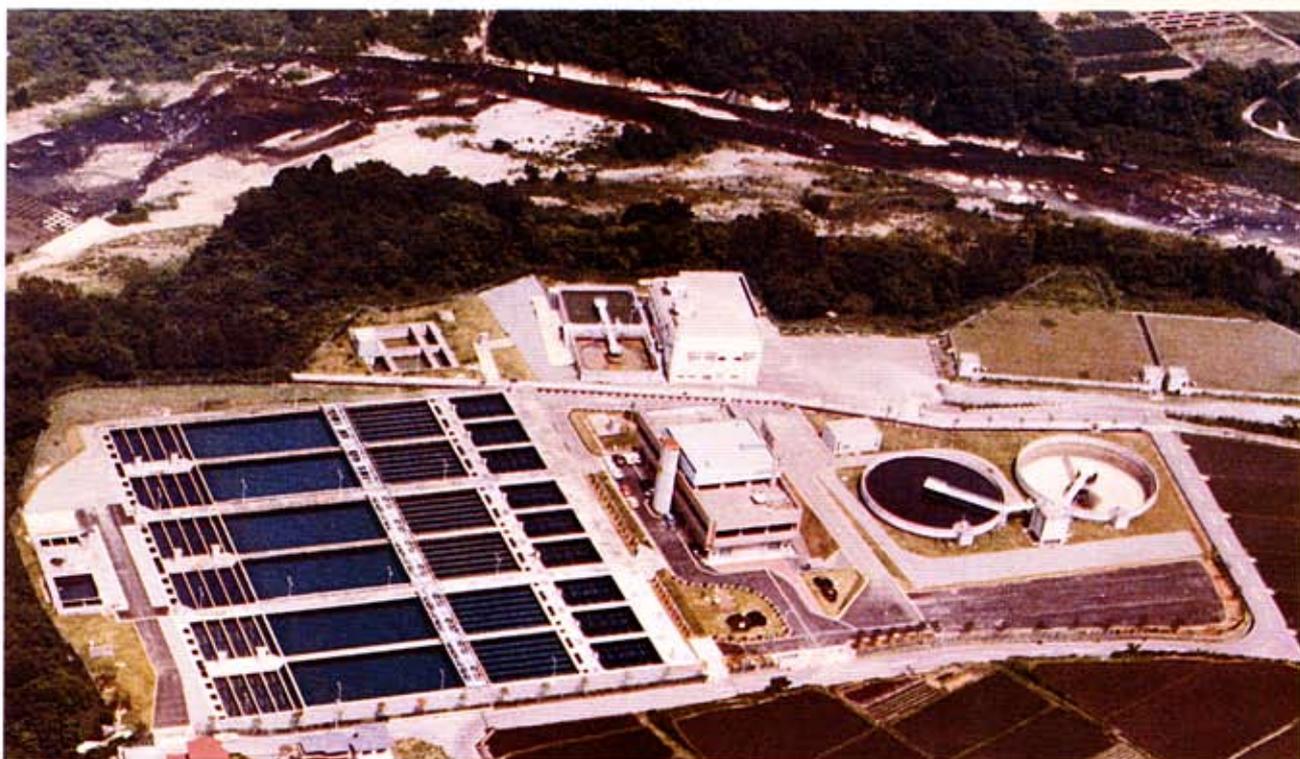
平成11年度県営灌漑排水事業  
中島地区水路工事  
〈平成12年3月24日完成〉



城北市民テニスコート整備工事  
日本海・治山社共同企業体  
〈平成13年3月30日完成〉

NIHONKAI KENSETSU

■50年の歩み



犀川浄水場新設工事 / 真柄建設・日本海建設共同企業体  
 (昭和56年8月31日完成)



金沢市新廃棄物埋立場建設B工事  
 熊谷・真柄・日本海・酒井共同企業体  
 (平成6年3月完成)

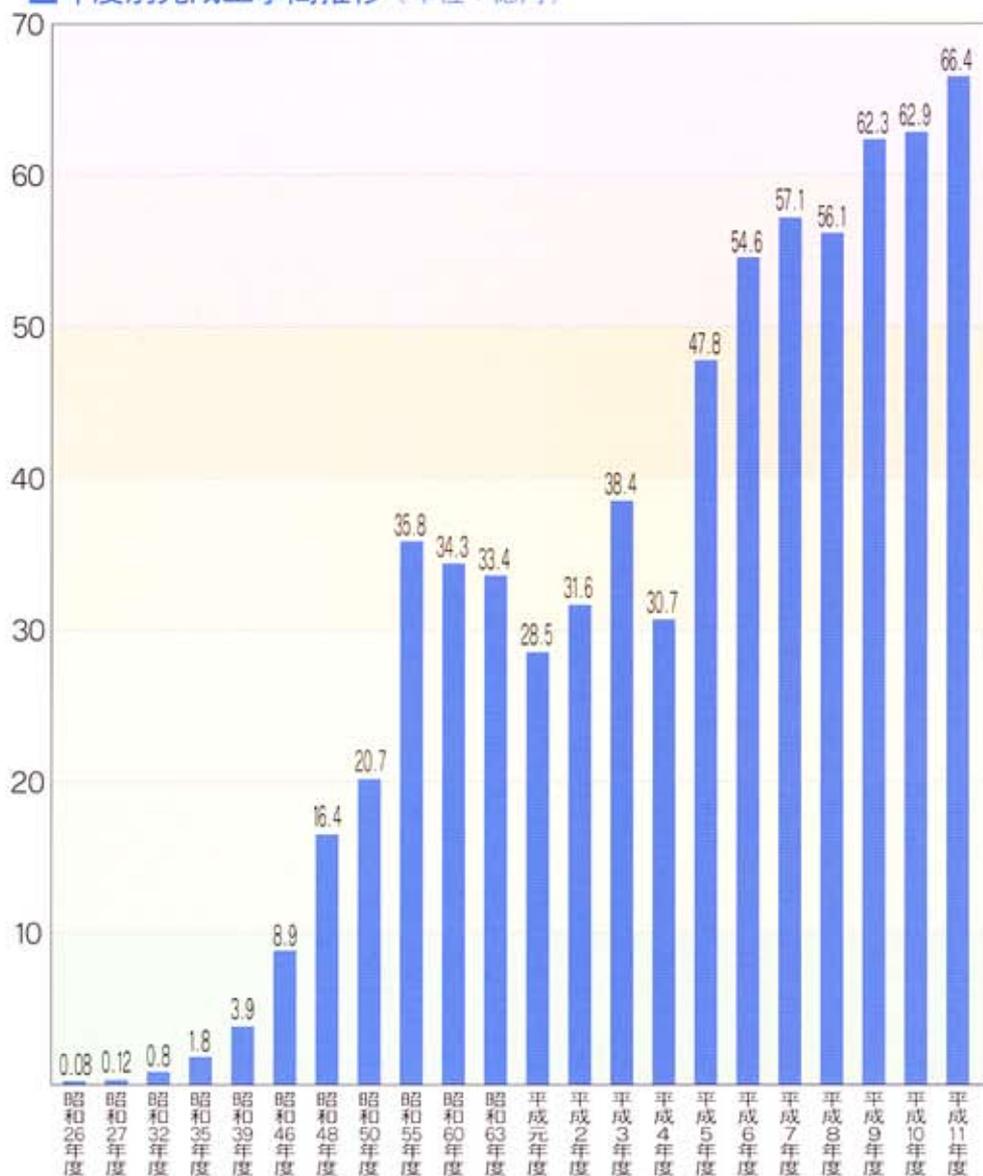


遮水(ゴム)シートと  
 浸出水集排・ガス抜き施設

### 沿革

昭和25年 7月 6日	金沢市青草町24番地（現在の近江町）において日本海築港株式会社を設立する。資本金は100万円とする
昭和25年 7月	建設業法による石川県知事登録する
昭和28年 7月	日本海建設株式会社に社名変更する
昭和29年 7月	本社を金沢市西町4番17号に移転する
昭和34年 4月	建設業法による石川県知事登録から建設大臣登録へ変更する
昭和41年 6月	七尾市内に日本海建設(株)七尾作業所を開設する
昭和44年 12月	増資により資本金を3,000万円にする
昭和45年 4月	本社を金沢市神田1丁目3番10号に移転する
昭和50年 4月	七尾市藤橋町に七尾営業所を開設する
昭和55年 6月	増資により資本金を4,500万円にする

### 年度別完成工事高推移（単位：億円）



■50年の歩み



毎年恒例の地引網大会  
福利厚生の一環として年に一度、内灘海水浴場に於て地引網  
大会が行われました。今回は大豊漁です。  
〈平成6年7月30日〉



採れた魚類をさっそく料理して、新鮮  
な海の幸を味わっています。採れた魚は  
あじ、セイゴ、イワシ、キス、イカ、  
などです。  
〈平成6年7月30日〉



内灘海水浴場 浜茶屋「なぎさ」於



小柳正彦社長就任披露パーティー  
〈平成8年10月22日 ガーデンホテル金沢於〉



若手新人社員達とジュースやウーロン茶で乾杯して、社長就任を祝う



昭和42年10月、当社に七尾営業所を開設して以来、長い間、会社に多大な尽力をつくされました北村清子さんの送別会  
〈平成9年8月31日 和倉温泉「のと楽」於〉

## ■50年の歩み



毎年開催されている「社内ミーティング」  
社長の挨拶に始まり、年間の営業目標、業界の状況や労務安全部からは労務災害  
状況、注意点など、営業部からは要望と施工管理における要点等が話し合われた。  
〈平成11年4月22日 金沢みなと会館於〉



社内ミーティング開催状況  
社員の真剣な眼差しがうかがえます

# NIHONKAI KENSETSU



品質保証と環境マネジメントの国際規格の認証を取得するために、平成12年2月より月に幾度も、ISO取得のため講習会が開かれました。模擬審査、予備審査や修正、改定を積み重ねて、9月に最後の実施審査を経て結果が発表されます。

〈平成12年4月28日 金沢地場産業振興センター於〉



## ■50年の歩み



ワープロ時代から、パソコン、Eメールやインターネット時代へ  
突入。我社も情報通信化時代の流れに乗らなければ!!  
(平成12年6月)



NIHONKAI KENSETSU

## グアム島慰安旅行

〈平成5年6月5日～8日〉



バセオ公園内の自由の女神像

## 香港慰安旅行

〈平成7年5月18日～21日〉



シンガポール慰安旅行

〈平成8年5月22日～25日〉



シンガポール市内ラッフルズ像の前於



市内のマーライオン像の前於

NIHONKAI KENSETSU

創立50周年記念

ハワイ慰安旅行

〈平成12年5月〉



ダイヤモンドヘッドよりワイキキ海岸や  
ホテル群を臨む  
〈平成12年5月17日〉

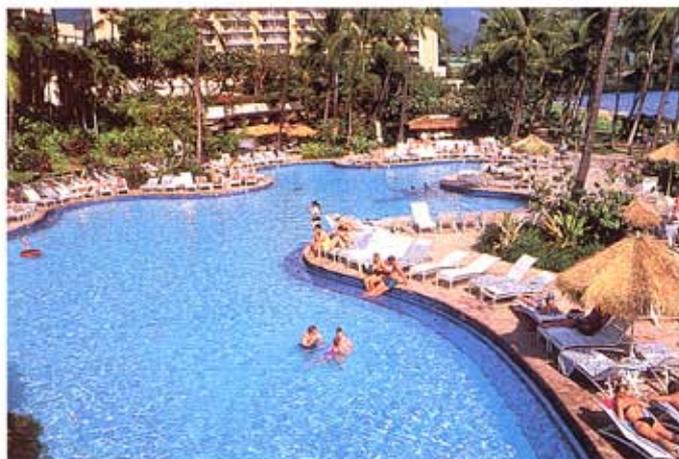


イオラニ宮殿前で撮影、後ろの銅像はハワイを統一した功績を称え造られたカメハメハ大王像  
〈平成12年5月24日〉



海上後方に見えるのは戦艦ミズーリ号  
真珠湾前の公園於  
〈平成12年5月18日〉

ハワイ・マウイ島内  
シェラトンホテルのプール風景





ハワイ慰安旅行 第1班のメンバー〈平成12年5月16日〉



ハワイ慰安旅行 第2班のメンバー〈平成12年5月23日〉

## 手取川生コン株式会社

生コンクリートの需要も拡大するに連れて、生コン製造販売会社を設立する

設 立 / 昭和39年6月16日  
住 所 / 能美郡川北町橋コ128番地  
資本金 / 15,000千円  
社 員 / 25名



初代社長  
小柳 章



二代目社長  
萩原鉄十郎



取締役社長  
川北 巖

専務取締役 / 小柳 英二  
常務取締役 / 川北 昇一  
取締役営業部長 / 中屋 隆征  
取締役工場長 / 喜作 進  
取 締 役 / 萩原 田雄



本社、日本海建設  
(株)の前で撮影  
金沢市西町4丁目  
17番地於  
(昭和39年7月)



■系列関連会社



生コンプラント1号機新機種取替工事  
(昭和63年2月)



新型生コンプラント完成式  
前列左より(当時の役員)  
取締役社長 小柳 章  
取締役会長 小柳 正明  
専務取締役 萩原鉄十郎  
取締役工場長 松本 信夫(左側)  
(昭和63年6月11日)



ミキサー型式(石川島)  
油圧式72S型2基  
傾胴型ミキサー(ロースランプ用)  
2.0m<sup>3</sup>混練容量  
バッチャー制御計量操作MCSⅡ  
受注者石川島建機(株)  
森機工(株)  
総工事費1億5千2百万円

## 金沢港船舶(株)

昭和45年11月金沢市に金沢港が開港され、海外から石油や木材の輸入が活発化され、それに伴い石川県セクター系の(株)金沢港運の要請により木材荷役作業の業務に着手することになりました。

設 立 / 昭和45年3月25日  
住 所 / 金沢市湊四丁目17番地  
資本金 / 30,000千円  
社 員 / 12名



初代社長  
小柳善五郎

### 〈当時の役員〉

取締役社長 / 小柳善五郎  
取 締 役 / 小柳 正明  
取 締 役 / 小柳 章  
取 締 役 / 萩原鉄十郎  
支 配 人 / 当波 茂



二代目社長  
萩原鉄十郎



■系列関連会社



木材吊り上げ用重機

- クボタ社/ログローダー
- T.C.M.社/  
くわ型タイヤショベル
- 石川島社/20t型クレーン





金沢港船舶(株)は、木材荷役業と並行して、本社の重機の軽油燃料使用、また手取川生コンのミキサー車の燃料にも供給できるように、専光寺町に昭和48年6月に、出光ガソリンスタンドをオープンさせる。小柳善五郎社長が、お祝いの挨拶をされました。



出光興産職員及び各販売店社長を御招待して、オープン記念式典を祝う。



昭和50年4月1日、春の交通安全週間にちなんで、出光興産より、金沢市米丸小学校に於て、生徒さん達に車社会での交通安全の指導を行いました。



昭和63年5月、金沢大学角間町移転大造成工事に伴う、ブルドーザー、キャリアスクレーパーに給油する灯油燃料使用量は、一日約10,000ℓ使用。最盛期には、一日30,000ℓの燃料を使用していた。手取川生コンの社員も常時3~4人、臨時パートで頑張ってもらっていた。

出光興産より、14Kℓのタンクローリーを借上げして、常時設置して、多い日には富山伏木港油槽所からタンクローリー車が一日3回も運送していた。



金沢大学移転工事に、常時フル稼働していたブルドーザーと、キャリアスクレーパー群。

当社創立50周年を迎え、記念誌を発行することとなり  
役員および社員の方々から、往時のなつかしい写真を  
提供していただくなど、ご協力を賜りまして、ようやく  
「50年の歩み」を完成することができました。不備な点が  
多々あるとは思いますが、我社が設立して以来、今日まで  
の歴史を少しでも社員の皆様方に、ご理解いただければ  
幸いと思います。

これからも当社の発展のため、さらにご協力をお願い  
して御礼のごあいさつとさせていただきます。

平成12年9月

代表取締役社長 小柳 正彦

## 「50年の歩み」 日本海建設株式会社

発行日 平成12年9月1日  
編集者 小柳 正明  
          小柳 章  
          白杵 久雄  
          小柳 英二  
印刷 徳野印刷株式会社

住みよい環境創りを目指す

 **日本海建設株式会社**

本 社 / 〒921-8027 金沢市神田1丁目3番10号

TEL(076)243-3131 FAX(076)244-1599

営業所 / 七尾・鳥屋・野々市・小松・富山